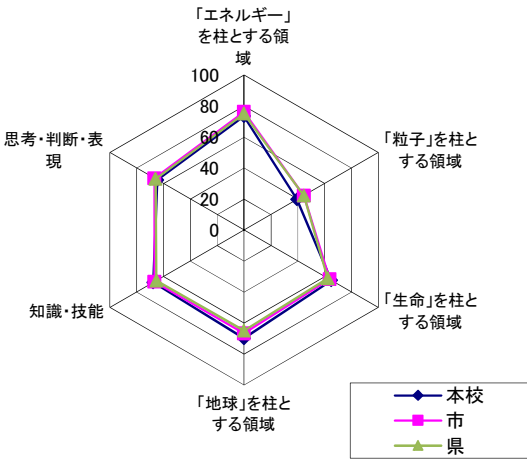


宇都宮市立錦小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	73.4	76.2	75.1
	「粒子」を柱とする領域	39.5	44.5	44.5
	「生命」を柱とする領域	64.9	63.6	62.3
	「地球」を柱とする領域	69.8	66.6	64.9
観点	知識・技能	67.6	66.8	65.4
	思考・判断・表現	64.6	66.8	65.9



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	・平均正答率は、県や市の平均正答率をやや下回っている。 ○鏡で反射した光の進み方を理解しているかみる問題の正答率は95.4%で県の正答率を4.4ポイント上回っている。 ○鏡の反射の実験の目的に応じた記録の表し方を理解しているかどうかみる問題の正答率は62.8%と、県の正答率を2.5ポイント上回っている。 ●磁石に付いた鉄くぎが磁石になったことを確かめる方法を考えることができるかどうかみる問題の正答率は65.1%で県の正答率を5.4ポイント下回っている。	・磁力を調べる際に、鉄粉を用いたり、映像を見せたりするなど、磁石の性質を可視化することで児童の理解につなげるようにする。 ・実験を行う際に、児童全員が用具に触れることができるように授業を行い、実験用具の正しい使い方を定着できるようにする。 ・実験後のまとめについて、全体で結果を振り返る時間を取ったり、児童自身の言葉でまとめたりすることを通して、理解を深め、定着を図るようにする。
「粒子」を柱とする領域	・平均正答率は、県や市の平均正答率を下回っている。 ○粘土は形を変えても重さは変わらないことを理解しているかどうかみる問題の正答率は46.5%で県の正答率45.7%とほぼ同じである。 ●同じ種類の木でできている積み木の重さを推測できるかどうかをみる問題の正答率は65.1%で、県の正答率を12.7ポイント下回っている。	・実験を行う前に、実験の目的をしっかりとおさえて、児童一人一人が予想を立てる活動を重視し、思考力を伸ばしていくようにする。
「生命」を柱とする領域	・平均正答率は、県や市の平均正答率を上回っている。 ○アゲハチョウが卵を産み付ける場所を理解しているかどうかをみる問題の正答率は76.7%で、県の正答率を15.8ポイント上回っている。 ●トンボの育ち方とモンシロチョウやカブトムシの育ち方の違いを記述できるかどうかをみる問題の正答率は74.4%で、県の正答率を5ポイント下回っている。 ●昆虫の体のつくりの特徴を理解しているかどうかをみる問題の正答率は74.4%で、県の正答率を8ポイント下回っている。 ●クモが昆虫ではない理由を記述できるかどうかをみる問題の正答率は65.1%で、県の正答率を4.5ポイント下回っている。	・植物や昆虫の育ち方について、実物や映像を見ながら確認し、いろいろな生き物の育ち方について理解できるようにする。 ・虫眼鏡の正しい使い方を復習し、全員が理解・定着できるようにする。 ・昆虫の学習については、野外での観察活動を重視しつつ、一人一台端末などのICT機器も有効に活用して、基礎的な知識理解の定着を図る。
「地球」を柱とする領域	・平均正答率は、県や市の平均正答率をやや上回っている。 ○観察の記録から、かげと太陽の位置の関係を読み取ることができるかどうかをみる問題の正答率は95.4%で、県の正答率を5.1ポイント上回っている。 ○かげの動きの実験の記録から、かげの動く様子を推測できるかどうかをみる問題の正答率は58.1%で、県の正答率を5.5ポイント上回っている。 ○太陽の位置の変化を方位で理解しているかどうかをみる問題の正答率は、55.8%で、県の正答率を11.8ポイント上回っている。 ○日なたと日かげの地面の温度の変化を理解しているかどうかをみる問題の正答率は72.1%で、県の正答率を6.6ポイント上回っている。 ●温度計の使い方を身に付けているかどうかみる問題の正答率は67.4%で、県の正答率を4.6ポイント下回っている。	・温度計の使い方については、デジタル教科書やICT機器なども活用して使い方のポイントをおさえるとともに、一人一人が実際に温度計を手にして活動する時間を十分に確保していく。